

支部便り

中国四国支部 中堅企業支援セミナー開催報告

A report of seminar on supporting for small and medium enterprise by Chugoku Shikoku Branch of the Japan Institute of Light Metals

日野 実

Makoto HINO

中国四国地区の中堅企業の支援を目的とし、2023年12月19日(火)、公益財団法人広島市産業振興センターと共催で中国四国支部令和5年度中堅企業支援セミナーを広島市工業技術センターにて開催した。昨年度に引き続き広島市工業技術センターにて開催することができ、関係各位に御礼申し上げます。

温室効果ガスによる地球温暖化に対応するため、自動車産業では二酸化炭素をまったく排出しない電気自動車への転換が図られている。本セミナーでは、自動車産業が集積する広島地区において、自動車の電動化と軽金属材料に関する話題を取り上げた。関心の高いテーマのため、55名と多くの方に参加いただいた(図1)。

最初に共催団体である公益財団法人広島市産業振興センター 城戸氏より開会の挨拶があり、続いて支部長より中堅企業支援セミナー開催の意義と軽金属学会への入会パンフレットの紹介ならびに勧誘が行われた。引き続き、3件の講演が行われた。以下に講演内容を簡単に紹介する。

最初に名城大学 経営学部 社会連携センター長 田中 武憲教授より「電動化による自動車産業集積への影響と今後の展望」と題して、自動車電動化の現状について、海外と国内を比較しながら詳しく説明された。特に中国での電動化はめざましく、米国のテスラとともにBYDが急速にBEVの生産を増やしている。今後、国内メーカーが電動化に取り組むなかで、バイポーラ型リン酸鉄電池や全固体電池などの電池開発が重要であり、ゲームチェンジャーになるとのことであった。また、広島での講演ということでマツダに関する話題も取り上げられた。電動化によって自動車の部品点数が減少し、特にエンジン関連の部品が不要になることはサプライチェーンに大きな影響を及ぼす。電動化に挑戦する中小企業について、具体的な事例を交えながら紹介いただいた。自動車関連の中小企業にとって大変参考になる内容であった。

続いて、広島工業大学 日野 実教授より「自動車軽量化を実現するマグネシウム合金と表面処理」と題して、マグネシウム合金の特徴や特性、軽量化効果、マグネシウム合金二次電池への応用が紹介された。特にマグネシウム合金は腐食しやすく、軽量化が強く求められるBEVなどに適用する際には表面処理が重要になる。講演者らが開発したリン酸陽極酸化処理は、優れた耐食性を有し、有害物を使用しない環境に優しい表面処理として、BEVへの適用が期待される。

最後に軽金属学会 櫻井 健夫氏より「自動車の電動化と

アルミ化技術の変貌」と題して、アルミニウム合金の特徴、自動車への適用状況、アルミニウム合金板材の自動車パネルへの適用事例、自動車の脱炭素化に向けた取り組み等について、具体的な事例を交え、紹介いただいた。また、アルミニウムの脱炭素化およびアルミニウム合金の将来に向けての取り組みについても説明いただいた。

最後に講演いただいた講師の皆様に深謝申し上げます。



図1 セミナーへの参加者



図2 名城大学 田中 武憲 教授による講演



図3 軽金属学会 櫻井 健夫 氏による講演